

連 携 と 協 働 へ ！

吉田小学校 学校運営協議会だより



令和2年10月20日

No. 2

【吉田小地域学校協働本部】

第3回学校運営協議会が開かれました！

新型コロナウイルスの感染はいまだ終息に至らず、不安を抱えつつ、「新しい生活」が続いています。

このような中、先日「第3回学校運営協議会」が開催されましたのでご報告いたします。なお、今回の学校運営協議会は、「児童生徒を守り育てる協議会」を含めた内容で行いました。また、今回初めて協議中に「熟議」の時間を取り入れ、3つのグループで熱心な話し合い活動を行いました。

1 日 時 令和2年10月6日（火） 18：30 ～ 20：00

2 場 所 吉田小学校 視聴覚室

3 出席者 学校運営協議会委員14名（欠席2名）、生徒指導主事
金瀬 聡教育長、大野 龍郎教育推進委員

4 内 容

(1) 開会あいさつ

石本校長があいさつをしました。（略）

(2) 協議事項

① 8月、9月の学校運営の報告

堀尾教頭が、8、9月の学校の様子や前期学校評価結果をもとに学校運営の報告をしました。

② 児童の健全育成について（含：児童生徒を守り育てる協議会）

まず、本校生徒指導主事の白形教諭から、今年度の吉田小学校の児童の状況やアンケート分析、課題等について報告がありました。

ア 児童たちが今年度成長した点

- ・縦割り班活動での各学年の行動、運動会での活動態度
- ・低・中・高学年における立場を考えた行動（～らしさの自覚）

◎行事が子どもを成長させ、自信と表現する力がついてきた。

イ 問題行動の理解と早期発見

ウ 問題行動の原因・背景（学校側・家庭側）

エ 「明るく楽しい学校にするために」のアンケート結果から



あいさつは学校ではできるが、地域でできていない意見紹介

・「吉小よい子のやくそく」の実践報告

オ コロナ禍の影響

・児童と教師及び児童同士の間関係、児童の声の大きさのバランス、感情の浮き沈み、明るさの減少 等

カ 代表委員会での意見交換の内容紹介

③ 熟議「吉小児童を地域でどのように支援していくか」（話し合い結果）

<Aグループ>

・ コロナ禍で学校の授業も地域とかかわる時間を取りづらくなってきたのではないか。

<Bグループ>

- ・ 最近は地域活動を中心に子どもとつながりにくくなった。
- ・ 現代は地域（大人）と子どもの時間帯が違うことが多い。
- ・ 学校任せの考え方を変える必要がある。
- ・ 児童のアンケート結果を提示して欲しい。

<Cグループ>

- ・ あいさつはできている。表現の仕方は子どもによって違う。
- ・ 大人からあいさつを積極的にする。
- ・ コロナ禍でゲーム中心の生活が気になる。知識はあるが体験不足の子どもが増えるのではないか。
- ・ 発達障害がある子どもに対する知識を専門家から聞きたい。

④ 統合 50 周年記念事業経過報告 （赤松市彦実行委員長）

- ・ 行う事業は「石碑」「DVD」「愛媛新聞掲載」とする。
- ・ 2月をめどに、石碑の除幕式を行う予定。

⑤ 情報交換

- ・ 前回の会で A さんより提案された向山の通学路の危険箇所の件ですが、本協議会委員の B さんが宇和島市と交渉をしていただき、山の上に「土砂止め」を設置していただけることになったと、報告がありました。期日は検討中だそうです。

↓

本件は本協議会の意見が宇和島市に反映した成果であり、児童の安全のために大いに役立つ事例だと考えます。学校側も本協議会の存在に大変感謝していました。

- ・ 子どもの教育については、「先生が子どもを見る」「親が子どもを見る」「地域が子どもを見る」ことが大切である。
- ・ 今はコロナ禍で難しいが、小学生はテレワークだけではだめである。対面が一番必要であり、触れ合いが大切である。
- ・ 将来のグローバルな社会を考えたとき、今の子どもに必要な力は、忍耐力であると思う。

(3) 指導助言

<大野 龍郎 教育推進委員>

① 熟議について

委員さん一人一人が熱い思いを持って、話し合いができた。少人数での話し合いのよさが出ていた。テーマは、幅広く意見が出やすい内容だったが、もう少ししぼってもいい。本協議会の熟議がコミュニティースクールの活動に生かされ、地域に浸透して欲しい。

② コミュニティースクールについて

コミュニティースクールの目的は「吉小の子どもを幸せにすることを考えること。そして、家庭・地域が幸せになること」である。今後も活動を積極的に進めてほしい。また、4月から各学校に配置されている地域コーディネーターをしっかりと活用して欲しい。

<金瀬 聡 教育長>

① 学校と地域の関係

「自分は社会の一員である」「自分で国や社会を変えられる」という子どもへのアンケート結果を見ると、欧米の子どもに比べ、日本の子どもたちの数値がすごく低い結果が出ている。学校における先生と子どもとの人間関係は「縦の関係」で、常に評価されている。しかし、地域の人々と子どもたちの関係は「ななめの関係」で常に評価はされていない。ここに地域と学校の協働関係の大切さがある。

② 熟議について

学校運営協議会は、コミュニティースクール（学校）と地域学校協働活動（地域）の中継ぎの存在である。これからの学校は、地域とともに教育課程やカリキュラムを作っていくようになると思う。宇和島市の教育は「持続可能な子どもの育成」「地域に誇りをもって生きる児童生徒」を目指している。少子化等で地域差はあると思うが、地域の方々が学校と関わることで、地域の子どもとつながって欲しい。**（新しいスタイルでの地域学校のつながり方の提案）**

(4) 閉会あいさつ

石本校長が閉会のあいさつをしました。

今年度は、新型コロナとも共存を考え、体験活動はできる範囲で行っていきたい。御協力をお願いします。

お知らせ

※ 第4回学校運営協議会は、11月26日（木）18：30から開催いたします。この会は、児童の健康・安全について話し合う「学校保健委員会」の内容を含む会です。ご意見・ご要望がありましたら、ご連絡ください。